

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 和 )

事業所番号	0670700939		
法人名	十和建设株式会社		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「和心」ふじ荘		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335番地1		
自己評価作成日	令和1年 10月 30日	開設年月日	平成 18年 1月 17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれが、その人らしい生活が送れるように心がけています。また、施設の催し物や地域行事を通して、地域交流を図っています。毎日を楽しみ、安心、安全に過ごしていただけるように、体力維持にも積極的に取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 元年 11月 22日	評価結果決定日	令和 元年 12月 12日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は家庭的な温かさが感じられることを大切にしており、職員は入居者が自分の身内のように接するよう心掛けている。また、以前の家庭生活の延長として暮らしていただけるよう利用者のできることはできるだけやっていたりしながら、その人らしく生活できることを大事にしている。藤島地区の4事業所主催の合同運動会では利用者・職員同士が交流を深め、友好関係を築き、同業者との交流を通じたサービスの向上に取り組んでいる。かかりつけ医の受診については生活状況などを情報提供書で主治医にお知らせすることで適切な医療の確保がなされているとともに、家族との情報の共有化が図られている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内や研修室に理念を掲示し、職員全員で理解を深め、必要性の再認識に努める。	理念を見えやすいところに掲示して常に意識できるようにしている。特に「笑顔を大切に」することを管理者も職員も重視しており、笑顔で話を聞くことにより利用者の思いを引き出すことにつながり、自分らしく安心して暮らせるようなケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域行事に賛同し、入居者様が参加できるようにしている。また、施設行事(地域交流会)の時は地域の方々に参加を呼びかけ、ボランティア協力もお願いしています。	藤島まつり、藤の花まつりなどの地域行事に積極的に参加したり、地域ふれあい交流会としての運動会に地域の方の参加を呼びかけたりしながら、地域とのふれあいを行っている。また中高校生の職場体験実習や小学生の植栽ボランティア、琴や太鼓のボランティア来訪など様々な交流の機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会や運動会を通し、認知症の人の理解や支援方法を地域支援センターと共に様子を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、入居者様の状況、施設近況報告し、参加者様より助言をいただき、サービス向上に活かしている。	市職員、包括職員、介護相談員、町内会長、民生委員、老人クラブ代表、婦人部、家族などが参加して定期的で開催している。行事等の活動状況や事故報告、研修内容、防災対策などを説明し、委員からは事故対策や避難訓練、地域行事等について意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回介護相談員が来訪され、入居者様と関わられている。ケアサービス内容や実情を運営推進会議で市町村職員に報告し、情報を交換しアドバイスを頂いています。	市職員が運営推進会議に出席している他、介護相談員が月1回来訪して利用者の話を聞いて頂いている。個別の事案については担当窓口に出向いて相談するなど日頃から協力関係を築く努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかける工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>外部研修をもとに、職員は入居者様の行動にあわせて支援できるようにカンファレンスで話し合い、対応に努めている。外出したい方には、付き添い見守り対応している。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束防止マニュアルや指針を作成している。委員会は3か月ごとに開催し、外部研修の発表や職員全員で普段のケアを振り返りながら不適切なケアが行われていないか確認しあっている。新規入所者で離脱願望が強く事故に繋がった場合には家族と十分に話し合いながら一時的にユニット入り口の施錠などの対応を図りながら事故防止に努めている。できるだけ利用者の気持ちに寄り添って散歩したり、好きなことや役割を持って過ごしていただくことで安心した暮らしができるように工夫している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部、外部の研修において、虐待について学ぶ機会を設け3か月に1回拘束廃止委員会を開いている。また新聞、ニュースなどで虐待が問題になった時には朝礼、会議の時に話題に取り上げ啓発している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>様々な福祉サービスの知識を学べるような内部研修を企画している。成年後見制度を現在利用されている入居者様もいます。今後も理解に努めていきます。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、十分な説明を行い、家族の不安や疑問点を伺い納得できるように説明している。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口があることを家族に周知しており、いつでも相談できるようになっている。また、家族の来荘時に困っていること、問題はないか声掛けしている。</p>	<p>毎月のおたよりで利用者の状況を報告したり、行事への参加時や日頃の面会時に職員が積極的に声掛けすることで家族が意見や思いを話しやすい環境づくりに努めている。介護相談員が月1回来所し話を聞いていただくことで外部に意見を表す機会となっている。</p>		

自 外 己 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議において、職場の意見を聞く場を設け、それを反映できるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、給料に反映し、環境整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加の機会を設け、働きながらトレーニングできるように努めている。	職員は個人目標を立て、管理者が半年ごとに面談で評価や指導を行うことで、働きながら資質の向上ができるように工夫している。内部研修は年間計画を作成し毎月実施している。職員が講師になることで自己研鑽の機会となっている。外部研修にも職責や力量に応じて派遣し、成果を復命・報告しながら情報の共有化を図っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホームの研修や庄内連絡会の研修、および交換実習にも積極的に参加し他施設との情報交換を行っている。	グループホーム連絡協議会の研修やブロック研修に参加している。また藤島地区の4事業所で合同の交流会やオレンジカフェの研修会など情報交換を積極的に行いネットワークを築いている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今まで生活されていた環境や様子などの記録を踏まえ、言葉かけにも注意しながら、要望などに耳を傾けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅を訪問し、家族と話し合いを持ち、要望希望を伺うなど話し合いの機会を作る。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本にと家族と話し合い、必要とするサービスを支援するよう心掛ける。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はして頂きながら、共同生活を送れるよう支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方より、一緒に出来る事を支えて頂くなどしながら連携し支援していく。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも訪問できる様な雰囲気づくりに努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が気の合う同士で一緒にするなど、お互い支え合えるよう心掛けている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者様のご家族にお会いした時は、近況を尋ねたり関係を大切にしている。			
<b>おあいしたときは</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の暮らしをもとに日々の会話から希望や考え方をくみ取る。困難な場合は本人の立場に立って支援を行っている。	職員は理念である笑顔を大切にしてお話をたくさん聞くことや、利用者ができること・楽しめることを見つけることに留意しながら会話の中から利用者の思いを把握するように努めている。困難な場合は利用者の行動や仕草からくみ取るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、施設などの情報を多く取り入れ、把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った活動(運動、言葉遊び、散歩)調理、洗濯物たたみ等、出来る事をしていただき、意欲を持って1日を過ごしていただく。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットごとにケース会議を行い、状況を把握し課題、問題点の解決を行い、計画の見直しを行っている。家族、管理者、ケアマネ、職員で話し合いの場を設けている。	3か月ごとモニタリングと計画の評価を行っている。計画作成に当たってはカンファレンスを行い職員のアイデアなどを取り入れながら、本人のできることを大事にしたブラづくりに努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの様子を個人ケース記録や連絡ノートに記入し職員全体で情報を共有している。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域広報や職員より情報を得、催し物に出かけたり、地域の子供会やボランティアの協力を得ながら豊かな暮らしが送れるように支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は毎日のバイタルの記録をもとに、状況を情報提供書に記入し、報告して医師からの指示を家族、職員間で共有している。	かかりつけ医を大切にしており、受診時にバイタルや生活状況を記載した情報提供書を家族から主治医に提供することで、医師からも指示を記載して頂けるようになり、安心して医療が受けられるよう工夫している。通院は家族付き添いを原則としているが、情報提供書により家族と医療機関、事業所間で情報共有がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>主治医看護師や訪問看護師と連携し利用者の健康管理が出来る体制づくりを勧めている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>かかりつけ医、協力医療機関とは、綿密に相談、情報交換できる関係作りを行っている。また入院した際は病院関係者と連絡を密にしている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に施設方針を説明し理解していただいている。重症化した場合も本人、家族と話し合い今後の支援方針を共有している。</p>	<p>入所時に重度化した場合の施設の方針について説明している。身体の状態等の変化に応じて繰り返し、また重度化した場合は家族・医療機関と綿密に話しあい、支援方針を共有するように努めている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルで初期対応を把握している。消防署の協力も得て定期的な訓練も行っている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>月1回の自主防災訓練、年2回消防署、地域の消防団に参加をお願いして訓練を行っている。</p>	<p>前回の目標達成計画に掲げた災害対策委員会を立ち上げ、マニュアルを定め、毎月1回自主訓練を実施している。水害等ハザードマップも確認も行われている。また年2回は消防署・消防団の協力を得て火災訓練、救急処置、消火器活用の訓練と指導を受けて、自主訓練に活かす工夫をしている。備蓄についても法人と検討し計画している。</p>		

自 己 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、尊厳を大切に思い尊重して言葉遣いなどにも気を付けている。職員会議などでも話し合う機会を設けている。	利用者のやりたいことを大事にしてその人らしく生活できるよう支援している。コミュニケーションの研修を行い、普段から言葉使いや声掛けについてお互い注意しあいながら人格を尊重した適切な対応に努めている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い生活状況を知るため日常生活などからの関わりの持ち方を探り引き出していくようにする。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本人のやりたい事、趣味、思いを尊重して本人に寄り添った支援ができるように努める。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容は本人の希望に合わせ理容師が対応している。衣類も本人が好きな物を着れるように対応している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を楽しめる食材を使うようにしている。利用者様も一緒になって調理したり、片付けも手伝ってもらっている。	三食施設内で調理している。利用者にも調理や配膳下膳などできることをしていただきながら家庭的な食事になるように工夫している。旬な食材や畑からの収穫など季節感に配慮した献立や、誕生会、芋煮会、外食など食事が楽しみなものになるよう努力している。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量、体重測定を行い主治医と連携を取り体調管理に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入居者様の状態に応じて見守り、また清潔保持支援を行っている。</p>			
42	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表を用いて、一人一人の排泄パターンに合わせ誘い自立に向け支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握して適切な誘導を行いながら、気持ちよく過ごせるように支援している。介護計画に具体的な排泄支援を掲げ、評価を繰り返しながら、自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>		
43		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>自立している方については、把握するのが難しところもあるが、水分摂取を促したり、運動の機会を作ったりし、便秘の予防に努めている。</p>			
44	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>自立している方は見守り対応にて、ゆっくり入浴していただいている。介助が必要な方は一部解除にて入浴を楽しんでいただいている。</p>	<p>個浴で鳥海山や月山を眺めながらゆっくりと入浴を楽しめるよう工夫している。身体状況に応じて介助が必要な場合には二人介助で対応するなど安全確保に努めている。入浴拒否する場合なども無理強いせず、言葉かけなどに工夫しながら入浴を楽しんでいる。</p>		
45		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>過去の生活習慣を参考にしながら、その方に合わせた休息、睡眠環境を提供できるように努めている。</p>			
46		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員同時で情報共有し、服薬ミスがないように日々努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居様の好きなこと、得意なことを日々の関わりの中で見つけ、個々に応じたレクリエーションにや、軽作業を提供している。</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人希望があれば対応し、外出可能な入居者様には、一緒に買物に出かけ支援している。</p>	<p>花見など季節的な外出や水族館見学などの行事による外出の他、天候を見ながらドライブをしたり、買い物などの個別支援、外食を楽しむ機会、敷地内の畑仕事、散歩など様々な外出支援を行っている。</p>		
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人より申し出があれば対応し購入している。外出などが可能な入居者には一緒に買い物に出掛け支援している。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者様より希望が有る時は電話したり、手紙を書いていただいている。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>快適に過ごせるよう、室内の温度調整を行っている。ダイニング、廊下に装飾を施し、季節感を感じていただけるようにしている。</p>	<p>毎日の清掃や温度・湿度管理の他、音や採光にも気を配り、過ごしやすい空間になるように気を付けている。ダイニングや廊下には行事の写真や利用者の作品などが飾られ、季節感を感じられるように工夫している。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う方々、入居者様同士のトラブルに配慮してダイニングの席順を考えている結果、会が弾んだり、個々にゆっくりされる環境が構築できている。</p>			

自 外 己 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様で使用されてきた思い出の品をい室内に飾ったり配置している。本人、家族の希望を聞き、居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	<p>利用者の馴染みの物を置いたり、思い出の品や写真などを飾ったり、またできる方には掃除を職員と一緒にやってもらいながら、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>夜間の安全を考慮したベッド位置、高さになっている。転倒の危険がある方はセンサーを設置し、予防に努めている。</p>	/	/	